

島のしくみ

～与論をどう活性化したらよいか？～

教育学部保健体育科

本田智史

0713570288

私は今回初めて与論島を訪れ、町長さんや役場の方をはじめいろいろな島の人の話を聞く中で様々なことを感じた。まずは与論島の漁業についてである。きれいなサンゴの海に囲まれ豊富な漁業資源でとても潤っていると話を聞くまでは思っていた。しかし、漁業組合の方の話によると近年、地球温暖化の影響か白化現象で大半のサンゴが死滅してしまいその影響で魚介類も極端に減少しており厳しい状況にあることを聞きとても驚いた。パヤオの導入など、さまざまな対策により持ち直してはいるが漁業資源がなくなってしまうとパヤオなども何も意味を成さなくなります。やはり与論島の漁業を活性化するためには漁業資源をどのように保護し、持続性のある漁業が行なえるかが最重要かだいである。

次に農畜産業についてである。与論島は奄美大島などと比べると面積が小さく耕作面積が限られてくる。さらに毎年の台風被害など問題はたくさんある。しかし、見学させていただいた与論町堆肥センターで行なわれている取り組みはすばらしいと思った。畜産農家から糞尿を買い取り、堆肥にしてそれをまた島の農家に売り、その農地で出来た飼料がまた牛などのえさになるというまさに循環型農業だと思った。離島なので堆肥を買うとなったら鹿児島本島や沖縄から買うとなるとどうしてもコストがかかってしまうので、与論島の農畜産業には欠かせないものであると感じた。さらに農業を活性化させるためには、与論島産の農作物のブランド化するべきだと思う。熱帯地域でしか栽培できない果樹を宮崎産マンゴーの『太陽のたまご』のように覚えやすいキャッチフレーズをつけて売り出したり、耕作面積が少ないのでそのぶん一つ一つの農作物に手間ひまかけて作れるなど、与論島でしか出来ないことをもっとアピールし他のものと差別化を図ることが大事だと思う。離島なのでどうしてもかかってしまう輸送費や燃料費などのコストを補え、与論島の農業の活性化につながると思う。

次にもっとも重要な産業の観光業である。観光業はピーク時から年々観光客数が減ってきており、また平成24年の8月～9月にかけて台風15・16・17号の影響によりホテルや民宿などの宿泊施設も大きな被害を受けてしまい、大変な状況である。しかし、観光協会は様々な取り組みをしており、特に1島1校での修学旅行はとてもいい取り組みだと思った。こういった修学旅行があることを私はいままで知らず、自分の修学旅行が与論島だったらなと、とてもうらやましく感じた。そして、修学旅行に来た生徒たちが帰って与論島の良さをいろんなところで話すことにより与論島の知名度UPにもつながる。または自分で今度は大人になってからまた来たいと思わせることが出来れば、それは大きな集客力につながると思えばすばらしい取り組みだなと感じた。観光協会の方はベストシーズンである7月～9月の集客が年々減ってきていることにより、1年を通して全体の集客数が

減ってきているとおっしゃっていたが、やはりいまのままでは沖縄などに比べ交通の便が悪い与論島にわざわざ行きたいと思う観光客はあまりいないだろう。そういった観光客の考えを変えるためにも、沖縄本島が近いことをうまく利用して沖縄経由での集客UPを図る為にもっと宣伝したりするべきだと思う。自分自身鹿児島市内から船で来るのはなかなか大変だったし社会人の観光客などは移動時間に時間を割きたくないと思うので、与論島までの最短ルートのアピールなどはとても大事だと思う。また、沖永良部や奄美大島などと連携して与論島だけではなく、奄美諸島全体でPRしていけば沖縄など他では出来ないことなので必ず集客UPにつながると思う。7月～9月のベストシーズン以外で行なわれているヨロンマラソンなどの取り組みによる集客にはそれなりに限界があると思うので、やはりいかにベストシーズンにどれだけ多くの集客UPが出来るかが重要な課題だと私は感じた。

今回の講義では離島での経済や暮らしの仕組みを学べたことはもちろんだが、約3日間与論島の方々と与論献奉をしたり、船のお見送りに来ていただいたりとたくさん触れ合う機会があり、与論島の方々の優しさや島ならではの空気感というものが私にはとても新鮮でとてもすばらしいものを感じた。それはきっと与論島にはずっと前から当たり前のようにあるものなのだろうが、いまのこの世の中でこんな場所はめったにあるものじゃないと思う。今回私が体験できたことをもっと多くの方に経験して欲しいので、もっと多くの方に与論島を知っていただき、是非一度与論島に行きあの空気感を味わい、あのきれいな海を自分の目で見て欲しい。